

要領様式第2号

出張報告届

令和6年 3月17日

吹田市議会議長様

会派名 参政党議員団

代表者氏名 中西勇太

出張者氏名 久保直子

下記のとおり出張したので届け出ます。

記



出張先	名古屋港湾会館 第3会議室 (愛知県名古屋市港区港町1-11)
期間	令和6年3月17日から3月17日まで 1日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	

「児童相談所の真実を語る会」開催実行委員会主催

児童相談所の真実を語る会 IN 名古屋

○開催の趣旨

児相問題とは？

児童虐待に関するニュース報道を機に、児童相談所の存在を知った方も多いことでしょう。

しかし、児相内での暴力、監禁、薬漬けの問題や突然我が子を連れ去られる「一時保護」の問題をご存知でしょうか？

子供を守るはずの児相による残酷な管理の実態を知る政治家・弁護士のほか、当事者となった保護者・(元) 児童の皆さんにお話していただく勉強会です。

189「いちはやく」←児相直通電話のその先にあるのは・・・

開催日時 令和6年3月17日(日) 14:00～16:30

(13:45開場)

開催会場 名古屋港湾会館 第三会議室

1. はじめに

去年の2月、駅頭活動をしている時に1人の女性に相談された。

「赤ちゃんがアトピーで発育不良で保健士さんや子育て相談で相談にのってもらっていた。体重は標準より軽かったがよくお乳を飲む機嫌の良い子だった。しかし、高槻市民病院に診察に行く手続きを取られ、その結果子供は強制的に乳児院に連れて行かれた。面会に行くことはできても子供と住むことはできない。どうか助けてください。」

私は、辻由起子さんというこども家庭庁参与の方に直ぐに連絡を取り助言を仰いだ。

「私の所に相談に来られる方はほぼ皆さん普通の方です。子供は帰ってきません。児童相談所の権限が強すぎてどうする事も出来ません。気を付けることは、感情的にならない事。感情的になる事で、この親は情緒が安定していないから子供を返すことはできない、と出来ない理由にされてしまう。淡々と落ち着いて対応する事しかできません。」

児童相談所は、正義の味方だと思っていたが、現実的に恐ろしい事が起きているという事を目の当たりにした。そこから調べて分かった現実は、一人につ

き40万円ほどが児童相談所に支給されるということ。ありとあらゆる手段で子供を返さないという事がわかった。

私は、元小学校教諭なので、児相に通報する場面も見たことがある。まさかこんなことが起こっているとは現場の教師は知る由もない。

テレビやマスコミでは、児相が見逃したことで起こった虐待や子どもの死亡事件が取り上げられ「児相は何をしていたんだ、もっと厳しく保護するように。」という世論が目立つ。一方で、学校や近所からの通報により子供を返して

もらえなくなった家庭の現状や、児相の実態を知る報道は皆無である。

中々、踏み込めない児相の真実を知る機会を得たため、他市の議員と共に勉強会に参加した。

2、 児相の強制力（当事者の話）

- ・裁判所の令状なしに子供を連れて行く
- ・公権力で隔離された状態で、親や本人の意思に反してコロナワクチンを打たれた
- ・一つの部屋に6人程の共同生活をした児童は、きまりを破ることがあると、連帯責任として独房に入れられることがあった。←保護されるべき子供の環境は少年院や刑務所よりひどいという
- ・一時保護で2か月、その後延長手続き取られ・・・

3、 児相の現状

- ・公的施設50・民間施設550

民間施設550を維持している、つまり経営していくためには常に子供がいけないといけないという事

- ・相談対応件数=児相の仕事件数≠虐待件数
(虐待件数が増加しているように見えるが実際はそうではなく水増し)
- ・特定妊婦・ひとり親家庭・障害のある家庭・生活保護の家庭は目を付けられる

例えば、ひとり親家庭の場合働かなければ子育てできないが、子供に留守番させていること自体をネグレクトとみなされ通報されるケースもある。

- ・虐待の概念が広がりどんどん取り締まっている。

・重大事件は、過去と変わらず50件程度で増減はないが、心理的虐待は1.2倍と最も多い（全体の60%）・・・警察からの通報が大半

4、 児相の問題

- ・親子の関係性を再構築するものになっていない
- ・令状主義ではない
- ・透明性がない
- ・総予算ではなく、単価制である
- ・利権構造がある
- ・薬の乱用・・・依存性の高いものを投薬している
- ・保育環境が悪い（虐待やネグレクトが散見されている）
- ・ともだ論文の嘘を今も採用している
- ・児相は、素人集団であるのに権力を持ちすぎている
（最近では裁判で負けるケースも増えている）

5、 終わりに

「子供の権利は守られるべき」であるが、このような実態が横行されている事を私達は知らなければならない。例えば、通報した学校の先生は、その後子供がどのような環境に置かれているのか、追跡調査するべきではないだろうか。また、児相の被害にあった方の声に耳を傾けるべきではないか。知らない事は罪である。児相に救われた子供がいる事も事実であるとは思いますが、本当はどうか真実を知る努力が必要である。

今回学んだことを元に、子供達が幸せな日常を取り戻せるために、広く伝えていきたい。また、社会全体が息苦しい世の中であるという根本的な問題が子供に皺寄せとなっている事に向き合い、社会の仕組み自体を変えていける様に取り組みたいと考えている。



参政党 吹田市議会議員 久保直子